



公益社団法人 日本介護福祉士会 会長  
一般社団法人 静岡県介護福祉士会 会長  
及川 ゆりこ さん

介護技術コンテストは、介護力を競い向上させる場であると同時に、各事業所が日頃やってい  
る言葉掛けや手技を披露する  
場であり、それを介護福祉士会  
が専門的な立場から確認する  
場です。今回、競技部門最優秀  
賞を受賞した芦澤さんには、さ  
らなるレベルアップを期待して、  
自分が介護しやすいようにベッ  
ドの高さを調節するなど、自分  
の体を守る、ことをアドバイス  
させてもらいましたが、自立支

利用者の背景の理解、プラン作り、  
サービス、全てが揃ってこそ介護。

援、声掛け、姿勢の保持など技  
術面はしっかりと身に付いてい  
て、ほぼ満点でした。また、ケア  
マネージャーが作るケアプラン  
や生活履歴を基に作る「個別  
援助計画書」の部門でも会長  
賞を受賞。芦澤さんは、ほかの  
介護職員が見てもわかる、細やか  
かで見つけられたものを作ってい  
ました。芦澤さんのような、自  
身で介護プランを作れる介護  
職員が増えていくことを期待  
しています。



静岡県健康福祉部福祉長寿局  
介護保険課 課長  
浦田 卓 靖 さん

介護技術コンテストは、競い合  
うことで介護職員同士が切磋  
琢磨し、技術を高めていくこと  
を目的としています。注目を  
され、評価をもらうことで介護の  
仕事に対するモチベーション  
アップにもなりますし、コンテス  
トに参加する職員にはほかの職  
員が協力して準備や練習をす  
ることで施設全体の技術向上  
にもつながります。今年も新型  
コロナウイルス感染拡大防止の  
ため、全体での表彰式が中止と

個人と共に、施設全体で介護技術の  
向上に取り組むことが重要。

なりましたが、楽寿会では独自  
に立派な表彰式が行なわれた  
ことに驚きました。施設のなさ  
に盛り上げ、喜んでいくこと  
が強く感じられましたし、コン  
テストまでの過程でも職員の  
皆さんが一丸となって取り組ん  
でいたことが、垣間見えました。  
受賞した芦澤さんにとっても、  
介護の仕事に対するますますの  
意欲と今後の自信につなが  
りますので、とても素晴らしい  
企画だと思います。



《第9回(2020年)》競技部門 県知事賞 受賞  
特別養護老人ホーム 楽寿の園  
芦澤 理子 さん

これまで7回出場してきた、念  
願の最優秀賞を受賞すること  
ができました。過去に最優秀賞  
を受賞した先輩たちからの確  
かなアドバイスと温かい励まし  
の言葉をいただけてきましたし、  
本番で自分にできることを精  
いっぱいやったので、この結果が  
本当に嬉しいです。諦めずに挑  
戦し続けてきて良かったと感じ  
ています。ふだんの介護で心掛  
けていることは、入所者に対し  
「やさしさの感じられるケア」を  
すること。特に、温かみのある言  
葉掛けを大切にしています。た  
とえば、入所者が「帰りたい」と  
おっしゃってきた時、まずは否定  
せずに聞いて受け止める。その  
うえで、なぜそう思うのかを伺  
い、不安に感じていることがあ  
れば「私がそばにいますから安  
心してください」と声掛けをす

「やさしさの感じられるケア」と  
諦めない気持ちで獲得した最優秀賞。  
これまで7回出場してきた、念願の最優秀賞を受賞すること  
ができました。過去に最優秀賞を受賞した先輩たちからの確かな  
アドバイスと温かい励ましの言葉をいただけてきましたし、本番  
で自分にできることを精いっぱいやったので、この結果が本当に  
嬉しいです。諦めずに挑戦し続けてきて良かったと感じています。  
ふだんの介護で心掛けていることは、入所者に対して「やさしさ  
の感じられるケア」をすること。特に、温かみのある言葉掛け  
を大切にしています。たとえば、入所者が「帰りたい」とおっしゃ  
ってきた時、まずは否定せずに聞いて受け止める。そのうえで、  
なぜそう思うのかを伺い、不安に感じていることがあれば「私が  
そばにいますから安心してください」と声掛けをす



受賞できて本当に  
嬉しいです!

## 静岡県主催 介護技術コンテスト 競技部門で最優秀賞(県知事賞)受賞!! 楽寿会の“尊厳を守る”介護技術とは。

楽寿会の介護職員である芦澤理子さんが、今年度の「静岡県介護技術コンテスト」で最優秀賞を受賞。  
楽寿会の「高齢者の尊厳を守る、介護技術が高く評価されました。」



楽寿の園  
芦澤理子さん

去る11月に、「静岡県介護技術コンテスト」(ケアコン2020)が行なわれました。今年度はコロナ禍を受けて、「エーゴ」を發揮し「チーム力!!」をテーマに掲げ、オンラインで開催。楽寿会はなんと、芦澤理子さんが競技部門の最優秀賞(県知事賞)、個別援助計画書において静岡県介護福祉士会会長賞のW受賞を果たしました。また今年度が9回目となるコンテストですが、楽寿会では過去の受賞を含め実に7名もの最優秀賞を輩出。介護福祉士の及川会長から「ずば抜けていた」という言葉もあり、法人全体として専門的な介護の知識・技術の高さがうかがえます。そして今回、コロナ禍により全体での表彰式は中止でしたが、楽寿会では独自に表彰式を企画、実施。施設を挙げて祝福する様子はとても感動的であり、職員が互いを認め励まし合うことが受賞の要因の1つになっているのだらうと思われました。もちろん、そこに至るには法人としての徹底した指導とそれに基づく職員一人一人の意識、そしてたゆまぬ日々の研鑽があるのには言うまでもありません。高齢者の尊厳を守る。という法人理念の下、継続さらには発展している楽寿の介護技術に迫ります。



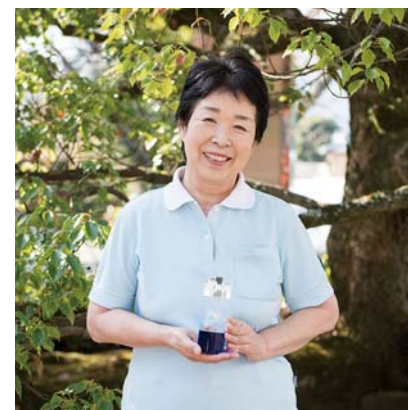
# 楽寿会45年の取り組みと、介護技術コンテスト歴代受賞者たち。

7名もの歴代受賞者の皆さんと、そんな成果につながる設立から45年にわたる取り組みをご紹介します。

《第1回(2012年)》  
競技部門 県知事賞 受賞

土海裕子さん  
排泄重度部門

私たち介護職にスポットが当たる場をつくってもらっていることが大変嬉しくありがたいです。



《第2回(2013年)》  
競技部門 県知事賞 受賞

増野容子さん  
食事軽度部門

コンテストという公の場で、日頃の介護の姿勢を評価いただいたことを嬉しく感じました。



《第6回(2017年)》  
競技部門 県知事賞 受賞

勝山隆介さん 三森由希さん  
入浴重度部門 / 入浴軽度部門

協力してくれた人に良い報告ができ嬉しかったです(勝山) / 改めて基本、笑顔の大切さを感じました(三森)



《第7回(2018年)》  
競技部門 県知事賞 受賞

牧田佳樹さん  
食事軽度部門

受賞したことで、より自信を持ち、利用者さんに対してより誠意を持って仕事ができるようになりました。



《第4回(2015年)》  
競技部門 県知事賞 受賞

岡本拓洋さん  
排泄重度部門

受賞した経験を活かし、ほかの人がまた最優秀賞を獲得するように盛り上げていきたいと思っています。



《第9回(2020年)》  
競技部門 県知事賞 受賞

芦澤理子さん  
入浴部門

コンテストに参加することで気づきがあり、自分の技術を向上する機会になると感じています。



## 20年以上前に「処遇技術大会」を開催。介護技術の向上に取り組み続けた賜物。

最優秀賞を1つの施設で何度も受賞できるのはなぜだろう。そんな疑問に答えてくれる楽寿会の歴史があります。1996年楽寿会の園では、創立20周年記念事業の一環として、「心をかたちに信頼は私の優しい言葉から」をキャッチフレーズに有馬理事長が

「処遇技術大会」を全国に先駆けて独自開催。職員は週2回、勉強会としてロールプレイに取り組み、大会でその成果を競い合ったそうです。選ばれた10名の介護職員が「寝たきりの部」「認知症の部」それぞれに参加。言葉づかいが専門性のバロメーターとなること



第1回「処遇技術大会」の様子



から有馬理事長の著書「介護・看護職のための言葉づかいチェックリスト」の評価基準を基に、各自のケアプランに沿った家庭的で尊厳を守る優しい介護ができたかを審査されました。介護の専門家のほか、全国社会福祉協議会高年福祉部長 山田美和子氏、淑徳大学教授 高橋五江氏、マスコミや弁護士、家族代表なども審査に当たり、上位3名を表彰。これが今から20年以上も前の取り組みということに驚きます。また、高齢者虐待防止法では「職務上の義務を著しく怠ることを虐待(ネグレクト)」と規定していますが、専門性の欠如した不適切サービスを排除しより良いサービスにつなげるため、防止法施行3年前に有馬理事長が全国に先駆けた著書『虐待防止チェックリスト』の存在は大きく、介護従事者自身が客観的に自分の発言や行動、専門技術等を評価・改善してきました。コンテストでの成績は、これらを率先、徹底して行なってきた賜物であり、証なのです。

## 高齢者の尊厳を守る 介護の専門性をSDGsに生かす。

今日の介護は、学問として体系化されていて、ソーシャルワークをはじめとした隣接分野の高度で専門的な知識・技術を取り入れて構成されており、高齢者関係各法が規定する適切な介護福祉サービスを提供することが義務付けられています。特に3大介護場面である、食事・入浴・排泄介助時のコミュニケーション技術を含む二つのサービスの適正を評価・改善し、さらにより良いサービスに発展させることが求められます。県主催の介護技術コンテストでこうした高度で専門的な技術を競い合うことで、静岡県における介護専門職の資

社会福祉法人楽寿会  
会長兼理事長  
元静岡福祉大学 教授  
(社会福祉学)  
ありま よしたけ  
**有馬良建さん**



楽寿会の取り組みは、高齢者介護を軸としながら、様々な分野で「持続可能な社会」に寄与。次のページでは、楽寿会のSDGsをご紹介します。

次のページ

静岡県介護福祉士会 会長賞もW受賞。  
今回、競技部門の最優秀賞(県知事賞)と共に、個別援助計画部門の静岡県介護福祉士会会長賞も受賞。数ある介護施設の中で、楽寿会が見事W受賞を果たしたのです。実は第2回(2013年)にも同様にW受賞しており、施設全体で知識や技術、意識を高く持ち続けているのだということが感じられます。それゆえに介護職員一人ひとりも意識高く日々技術の向上に励んでいるからこそ、これだけの受賞者を輩出できているのでしょう。これはまた、ほかの介護施設やその職員の方々の刺激にもなっているはず。それはつまり、楽寿会の技術の向上が介護業界全体の成長・発展にも寄与していると言えます。



\*撮影時のみマスクを外しています。





13 気候変動に具体的な対策を  
リハビリや排泄のケアで、自立支援を促進しながら使用済みオムツも削減。



足腰の筋力UPのリハビリ、排泄パターンの把握により可能な限り自分でトイレに行けるよう支援。水分量の多い使用済み紙オムツを減らし、焼却のエネルギーを削減。環境配慮にもつなげています。



3 すべての人に健康と福祉を  
感染症対策

昨今の新型コロナウイルス感染症に対する啓発活動はもちろん、あらゆる感染症に対して職員が適切に対処できるよう感染症対策チームを立ち上げ、毎月2回の防護服の着脱訓練に取り組んでいます。厳しくも丁寧な指導は技術と意識の両面を向上させています。



14 海の豊かさを増進しよう  
界面活性剤不使用の洗剤を利用。

楽寿会では洗濯用洗剤として、同じ美和地区にある「かなの家」で作られる合成界面活性剤不使用の粉石鹼を利用。人や環境にやさしく、地域の施設との連携、障がい者の仕事創出にもなっています。



5 ジェンダー平等を實現しよう  
楽寿会では管理職の女性職員が活躍。

楽寿会では女性職員の管理職も多数活躍しています。もちろん産休・育休制度、再雇用も積極的に取り入れ、ライフステージに合わせた働き方の実現にも努めています。



過去に開催した子育てサロンや認知症カフェの様子。



11 住み続けられるまちづくりを  
子育てサロンの実施  
認知症カフェ

地域の課題に  
応えます。



楽寿の園 副園長  
有馬万紀子さん

「お気軽カフェらくじゅ」  
認知症の方とその家族、地域住民の方々を対象に、毎月1回、各専門職によるミニ講座とグループワークを兼ねた茶話会を行なってきました。昨年度だけで実数94名、延べ人数527名の認知症高齢者を含む地域の方に集まっていた交流しました。  
(今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止。今後はオンライン開催を実施予定)

静岡市認知症カフェ  
認証事業

孤独なママを作らないため、地域の子育て世代の情報交換と交流を目的に、産婦人科の看護師ママと一緒に令和元年より開催。ベビーマッサージや茶話会、写真撮影会、オススメの絵本紹介、そしてハンドベルの楽器演奏などを実施しました。楽寿会の音楽療法士や作業療法士といった専門職の職員たちも参加し、子育てママの不安感や孤立感にも対応できる体制をつくりました。



4 質の高い教育をみんなに  
小学生への福祉・キャリア教育の実施

地域の小・中学校を対象とした福祉や介護に対する理解を高める講義を定期的開催。地域福祉のあり方と必要性を子どもたちに優しくわかりやすく伝える講義です。将来に向けた取り組みとして専門的な授業はもちろん、陶芸や茶道といった芸術活動や遊びを通じて高齢者との関わり方を考案しています。また未来の介護職の可能性を支援するプロジェクトとして外国人特定技能1号(介護)に対する試験対策のサポートや、専門職を地域に派遣し介護予防に関する講座を実施するなど、幅広い福祉と介護の発展のために多くの教育プログラムを進めています。



小・中学校で、茶道や陶芸などの伝統文化を通じて、思いやりの大切さを考える授業を実施。



茶道裏千家淡交会静岡支部 松井宗賀先生によるお稽古。



17 パートナシップで目標を達成しよう  
日本の伝統文化を取り入れた福祉活動の実施

茶道や華道など長く研鑽されてきた伝統文化を学ぶことは、職員それぞれの日常を正し自律するための基礎づくりとなると楽寿では考え取り組んでいます。福祉活動における教育の一環として取り組むことだけでなく、所作の美しさや感受性、人間性を磨き、質の高い介護の実現を目指している楽寿らしい活動と言えるでしょう。その成果は前のページで紹介した介護技術コンテストや各施設の介護サービスにおいて大いに発揮されているのがわかります。



15 陸の豊かさも守ろう  
エリア内における緑化推進と、静岡県の「お花が自慢の職場宣言事業所」への参加

花と緑にあふれている楽寿。自然から感動と勇気をもらうことで、入所者が生き生きと過ごせる環境を整えています。職員と入所者のコミュニケーションのきっかけになったり、職員にとって、花を愛でることで高齢者の尊厳を大切にすることを育むものとしても重要な存在です。静岡県の「お花が自慢の職場宣言」にも参加しています。



社会福祉法人 楽寿会  
(楽寿の園 高齢者総合福祉エリア)  
静岡市葵区与左衛門新田74-6  
TEL/054-296-1111(代)  
営/8:30~17:30(問合せ時間)  
駐/200台 <http://www.rakuju.or.jp>

そのほかの楽寿会の取り組み

